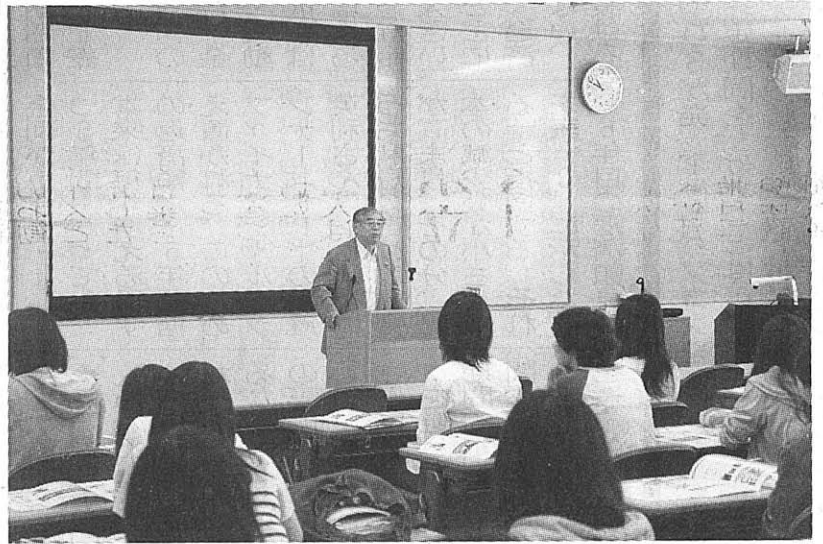


# 「気づき」の大切さ伝える



講演の様子＝24日、島根県立大学短期大学部松江キャンパスで

小松電機  
産業社長

## 小松昭夫氏、県立大で講演

松江市浜乃木の島根県立大学短期大学部松江キャンパスで二十四日、講義の一環として小松電機産業株式会社（同市乃木福富町）社長の小松昭夫氏による講演が行われた。

同大総合文化学科の非常勤講師、松本雄志氏による「ホスピタリティ論」の講義の一環として行われ、履修している学生たち約六十人が聴講した。両氏は、松本氏が松江東急インに支配人として勤めていたころからの旧知の仲であり、今回は松本氏が、「学生たちに、社会人になるにあたっての心構え、会社が求める人材像について伝えてほしい」と企

画した。

講演の中で小松氏は、勤めていた会社の

倒産から同社の設立、発展へと導くまでの半生を紹介し、「『気づき』を得ることがあらゆることの原点。いろいろな人と話をし、さまざまなことに取り組んで『気づき』を得、関心や悩みを持つことが自分の未来を拓く資源となった」と語った。また、「クラウドコンピューティングとスマートフォンにより、今はどこにいても自分の未来が開ける時代。その中でそれぞれの個性が大切になる。欠点を知り、長所を伸ばせば、その欠点は個性となる。人生において無駄なことは何一つない」と学生たちにエールを送った。